第２分科会記録

「上海日本人学校の様子」

備前市香登小学校 教諭 延岡 康明

映像を流しながら紹介が進められた。

ＤＶＤの内容

◇　上海日本人学校の校歌　　作曲 團伊玖磨
◇　教室　雰囲気は日本の学校と全く同じ
◇　事務　日本人と現地採用のスタッフ
◇　保健室　現地スタッフと保護者による管理
◇　校長，教頭（２人）　みんな海外派遣経験者
◇　英語・中国語　週１回ずつの授業
◇　図書館　２つあり蔵書も多い
◇　運動場　芝生をはってある
◇　部活　週３回あるが中学生には物足りない
◇　室内プール　恵まれた施設
◇　登下校　５０台にも及ぶバスや自家用車
◇　運動会　近くの競技場を借りて行う
　　２０００人を超える児童生徒によるスケールの大きい運動会
◇　現地との交流　国際交流ディレクターがコーディネイトしてくれる
◇　学習発表会，修学旅行

しめくくり

３年間，日本と中国の紅の橋（紅橋）になるのだという気持ちで教育活動をしてきた。

Ⅱ　質疑応答

発表①について

新見　都築先生

「フィリピンとの交流をされているが，英語とリンクしているのか。総合的な学習の時間に英語活動をしているところが多いが，子どもたちがどのように主体的にかかわっているのか。総合的な学習の時間が減りそうだが，それに向けてどのように考えているのか。」

回答　「ビデオレターを制作するときに学習内容を生かしている。１回目は学区の様子や特産物を紹介した。２回目は日本の学校の様子を紹介した。また，合宿やホームステイをして交流を行った。その後，子どもたちの自発的な活動として，文房具や楽器を送る活動が始まった。クリスマスカードも送っている。今後，総合的な学習の時間の時数が減っても英語活動の時数は保っていく。子どもたちの自己表現力を育てるために心をひらいていく環境づくりが必要である。学区をあげて続けていきたい。」

上道中 ながき先生

「費用はどのように捻出しているか。」

回答　「ＮＰＯ法人イングリッシュサイズの福田先生を特別非常勤講師として申請している。低・中・高学年で授業を行い１日にまとめて行っている。夏の研修は研修セ

ンターから費用を出してもらっている。また，優秀なＮＰＯ法人に対しては，日本郵貯銀行サポート基金から援助が出る。」

県立盲学校 西村先生

「ほかにもＮＰＯ法人があって高田小学校のような例が広がっていくのか。」

回答　「現在，県内には英語に関する NPO 法人はないと思う。ただイングリッシュサイズで研修を受けた人で広がっていくことはある。また，民間との連携もコーディネイトできるので希望があれば連絡してほしい。」

発表②について

上道中 ながき先生

「現地との交流で，学校ではなく現地に住む人との交流はあったのか。」

回答　「現地の人々との交流はできていない。難しい問題がある。」

県立盲学校 西村先生

「保護者は中国語の授業より英語に熱心ということはないか。実際中国語の力はついているのか。」

回答　「その傾向はある。そこに暮らしている以上その国の言葉を大切にすることは当然だと思う。中国語が身についている子も多い。これから中国語が大切になってくるという意識は保護者の中にもある。」

Ⅲ　指導助言

全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会会長　生野　康一 先生

ＮＰＯ法人との連携はすばらしい。しかし費用などの問題で横とのつながりはとりにくい。ＮＰＯが横に広がっていくことが大事である。高田小学校では子どもが育っているので，次に発信していくことを考えるといい。自己表現力がついてきたら発信したい。岡山，全国，フィリピン，全世界へと。国際理解のねらいを達成することになる。高田小学校は３世代が多いのなら，若いおじいちゃん，おばあちゃん，お父さん，お母さん，子どもの世代が縦につながり，子ども，親，祖父母が横につながるようにすれば，広がりをみせるようになる。子どもたちが行った英語劇をおじいちゃん，おばあちゃんもやってみてはどうか。横に広がることが子どもたちの夢を広げることになる。

上海日本人学校はバンコクを超え世界一の大規模校になった。中学校はもう一つでき校長も２人になった。日本で経験できないこと，大規模校で経験したことが日本でどう還元されるのか。アジアの日本人学校では塾が発達していて塾通いが多い。スクールバスの後ろに塾の車がいる。日本人学校と塾が共生している。しかし，塾はやっぱり塾である。子どもたちに力をつけるためにシステム化されている。学校はふれあいや協力があり切磋琢磨して成長していく。だから，塾と学校は共生できる。ただ塾がのさばるのはよくない。上海で日本人学校は１つしかつくれない。あれだけの大規模が子どもたちにとって幸せなことか？一方世界には３０人以下の日本人学校が２０を超えている。１０人以下になろうとしているところも数校ある。どこも苦労はある。そこに根付いて海外で生活していくことは大変である。

ＮＰＯが海外の日本人学校でどのように連携できるか。日本人学校の英語が日本でどう活かされるか。期待したい。

記録　：　川上　敏（岡山市立鹿田小学校）